
迷宮街の見る! 幻想《ゆめ》は

天牙氷月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷宮街の見る幻想^{ゆめ}は

【Nコード】

N5493N

【作者名】

天牙氷月

【あらすじ】

林亮介氏の迷宮街クロニクル「めニクル」とその原作の和製Wizardry純情派「和製Wiz」、そして和製Wizのコミカライズである迷宮街輪舞曲「輪舞曲」の二次創作短編集です。様々な視点で書いていこうと思います。

京の幻想へゆめ〱の溺れ方（作品傾向）（前書き）

作品傾向と注意書です

京の幻想へゆめ」の溺れ方（作品傾向）

この作品では原作にあるネタの改変系の短編を中心に書いています。

作品によって「めニクル」寄りだったり「和製Wiz」寄りだったり、極稀に「輪舞曲」準拠だったりします。

「輪舞曲」は一部で黒歴史とされているらしいので、苦手な方は避けてください。

原作者以外の手による作品を許せない方、文体が異なることを嫌う方、キャラのズレが許せない方はお引き取りください。

また作者は重度の越谷ファンであり、彼がらみのネタが増えがちです。ですのでアンチ越谷の方はお気をつけください。

京の街は人柱へひとを刻む(前書き)

「めニクル」。真城雪視点。越谷死亡にかんする真壁とのやり取り。

京の街は人柱へひとを刻む

「やはり、そこに居たのが俺でなければ」

先程わざわざしてやった説明を否定するかのよう^に真壁は独白を続ける。

「越谷さんが助かっていた可能性は在ったと思うんです」

その言葉に、一瞬息が詰まりそうになる。葛西君でさえ無理だと言った以上、健二を助けられた可能性は一欠片さえもないと理解^{わか}っているのに、この男は何を言っているのか。

そう思っているにも関わらず、アタシは真壁の言葉に耳を傾け続けた。

「此方の場合は考えるだけ無駄なんです^が、星野さんなら拳銃で対処できましたよね」

確かにあの部隊の本来のリーダーである星野の本職は自衛官であり、拳銃の腕はかなりのものである。しかし、

「自衛官として潜っていない以上は拳銃は持ち込まないよ。それにそもそもあの日星野さんは迷宮街に居なかった。だから、どうにもならないさ。」

そう、星野がいないからこそこの日に出稽古が行われた。真壁がな^んと考えようと無意味である。

しかし、真壁の苦悩は終わらないようだった。

「あとは、もう一つ考えていたことですが」

まだ続くのか、と一瞬あきれた。しかし、その後が続いた言葉に何も言えなくなる。

「もし、あの部隊に出稽古に行つたのが俺ではなく津差さんだったら」

真壁がそんなことまで考えていたことには驚いたが、確かに津差も出稽古に参加したうちの一人である。星野の不在を嘆くよりはまだ意味のある思考だった。

「例え葛西さんにすら受け止められない突撃だったとしても、津差さんだけは受け取られたかもしれない」

ああ、あとは南沢さんもですねと真壁は苦笑^{わら}った。

確かに星野の場合とは違い否定しきれないと思った。第二期とはいえ、探索者随一の体格を誇るあの男なら不可能とは言い切れない。

しかし、真壁を自分の部隊で連れていくと決めたのは健二自身だ。確かにそこに居たのが津差であれば助かったかもしれないが、死^{それ}は健二が選^えびとつた結末だ。

そこまで考えて、ふと気づいた。そもそも津差は星野部隊に加わらない。

「真壁、一つ忘れていることがあるよ。お前が加われた以上、健二

のとはタカ派だ。ハト派の津差は引き受けないよ」

本当は、今回だけはそう言いきることは出来ない部分もあるのだが、そこまで教えてやる必要はない。

現に真壁は、やっとあれはどうにもならないことだと納得したようだった。

「真城さん、有難うございます」

その言葉を聞きながら、真壁がこの街を去るまでにこれ以上傷つかなければ良いと願った。

京の街は人柱へひとを刻む（後書き）

津差はいろいろと規格外です。精鋭四部隊の考察もそのうちやりたいです。

喪失の悪夢へゆめは渴望と共に(前書き)

「和製Wiz」。黒田聡視点。ゴンドラ設置後の話。

喪失の悪夢へゆめは渴望と共に

ゴンドラ設置の攻防戦における犠牲者は多く、精鋭四部隊と呼ばれるものにさえ死亡者を出した。

故に第二期最高峰である理事の娘達が率いる部隊とはいえ、戦士の一人が死亡したことなどそれ程大きな問題ではないと見なされているようだった。

それまで特に交流が在ったわけでもない相手の死より自分の部隊から出た死者の方に重きを置くのは当然だった、自分以外にとつてだが。

そう、自分にとっては魔女姫の部隊の仲間で在った縁川よしかわさつきの死以上に青柳誠真の死が堪えている。

それまで自覚することのなかった自身の才能、共に戦う高揚感。

青柳と共闘していた間の前代未聞の好調は、いまの迷宮街の誰と組んだところで得られないものだった。

それだけに、青柳が首からの夥しい出血と共に倒れ臥した瞬間に感じた喪失感はまだ忘れ去ることは出来なかった。

あの時感じていた高揚感を得られるなら精鋭四部隊の一員という肩書きなど捨てられるという想いは未だ変わらない。

もし、今日の前に自分達黒田や青柳のような戦士が現れたなら確実に引き抜きをかける。

第二期募集の期間は残り少なく、同類の希少性を考慮するならすぐに現れることはないだろう。

しかし、そのうちに第三期の募集が始まれば一人くらいは現れても良いはずだ。

第一期に自分が、第二期に青柳がいたのだから第三期に必要な以上の期待をかけてしまうのも無理もないと強引に結論付ける。

どれ程非合理的で根拠のないことであるかを理解した上でその存在が現れることを渴望し続けた。

その時を心待ちにし、人当たりの良さと交流の広さで渴望を他者から覆い隠しながら探索者最高の戦士は今日も地下で化け物を殺し続けてる。

喪失の悪夢へゆめは渴望と共に（後書き）

この人は「和製Wiz」と「めニクル」で別人だと思う。そのうちにもう一方も書くつもり。

緋き過去へこたえは追憶と共に（前書き）

「めニクル」。越谷健二視点。山口死亡時の回想。限りなく捏造な湯浅の力量。

緋き過去へこたえは追憶と共に

剣豪の娘を出稽古に加えた部隊も無事地上に戻ってきたようだ。目の前を通りすぎていった湯浅を眺め、ココアを啜りながら思考する。

もともと、笠置町翠の実力を考えれば大概の人間は当たり前前的事として受け止めるだろう。

それ程彼女の力量は第二期の水準から飛び抜けている。

そこまで考え、ふと頭をよぎったのは先程目の前を通りすぎていった人物のことだった。

あの日の湯浅の実力を知る人間は、既にこの街には他にいない。

自分や熊谷より圧倒的に優秀な戦士として知られていた男、山口の死を前にして生き残っている四人全員が動揺していた。

特に熊谷の動揺は酷いものだった。緑龍の吐いた硫化水素は山口だけでなく、当時熊谷の恋人であった美香の命も奪ったからだ。

前衛の要に加え術師も失った状態での自力の生還は難しく、救援要請を出した。

不幸中の幸いながら、電話線の近くのことだった。

救援を待っている間にカンフーの襲撃にあい、応戦しようとした瞬間に見た光景は少々信じがたいものだった。

それまでの事態で精神的に消耗し、術を使う余裕を失った湯浅が山

口の鉄剣でカンフー達を粉碎していた。
少々呆然となりながらも自分達も応戦する。

なんとか凌ぎきり落ち着いたところで、先程の光景が如何に凄まじいものだったかに気が付いた。

山口は身長190以上の長身で、彼の振るう鉄剣は自分や熊谷でもてあます程の重量と長さである。

それを薬師であり普段は化け物との殴り合いなどしない湯浅が使いこなし、あまつさえ戦士達と変わらない程の数を殺したのだ。

山口と比べれば劣るとはいえ、熊谷や自分は戦士として優秀な部類に入る。

余りにも信じがたい事実には救援が到着するまで呆然としていた。

「明日は宜しくお願いします」

その声でふと我に帰る。

目の前には明日自分達の部隊に出稽古に来る真壁がいた。

それに返事を返しながら、ふと昨日的場や大野と話したことを思い出し、そして閃いた。

取り敢えず、まずは雪に提案してみることにしよう。

実現したときに湯浅が参戦してくれたら面白いことになるだろうと考え、笑いが溢れた。

緋き過去へこたえは追憶と共に（後書き）

何故か自分の中で定着している、湯浅最強説な話。
実際体格から素手なら越谷や黒田より上だと思つ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5493n/>

迷宮街の見る!幻想《ゆめ》は

2010年10月9日23時00分発行